

# 夢キックオフ☆インタビュー



## 2回目 ガラス工房 おいまつ さん

### しんちゃん窓の窓

お正月号  
地域創造部



9月26日(月)に倉敷市老松町にある、ガラス工房おいまつさんの工房を見学させていただきました。

ガラス工房 おいまつさんは今年の6月1日からオープンして、子供から大人まで様々な方にガラスの作り方を教えています。

経営されているのは、倉敷芸術科学大学卒業生の田邊さんと奥村さんです。お2人にインタビューをさせていただきました。

—ガラスに興味をもたれたのはいつからですか。

奥村 以前テレビ番組の「テレビチャンピオン ガラス選手権」を見たときです。その後、大学のオープンスクールで吹きガラスを見学した際にもっと興味をわきました。

—2人で仕事を始められたきっかけを教えてください。

奥村 大学でも仲が良かったことと、将来やりたいことのベクトルが同じ方向をむいていたというのが大きかったと思います。ガラスを作ることは楽しいけれど、それ以外に人と関わる仕事がないので2人で話していました。そして「教室がやりたい」って意気投合しました。

—ガラス作品の材料費はいくらくらいですか。

田邊 作品により異なります。ガラス代だけではなく、ガラスの型にする石膏代、粘土代、工房にある釜は小さいので、大学の釜のレンタル代など。大きな作品は大学の頃つくっていて、施設が充実していたので費用はあまり良く分かりません。でも、社会人になって1から作品を作ろうと思ったら200万円くらいかかるのではないのでしょうか。

—お2人にとってガラスとはなんですか。

田邊 ガラス制作を9年続けていますが、いつも新鮮なものです。時々ガラス以外の素材でやってみたら？と他の人にいわれることがあります。興味を持てないです。釜から出てきたときが嬉しいんです。

奥村 毎回同じことが起こらない！光を通したり、いろいろな色があるのは、ガラス以外ありません。

—これからガラス工房おいまつさんをどのようにしていきたいですか。

田邊 ここを拠点に、美術館に展示したり、ワークショップやお祭り、出店など、地域に密着してガラスを広めていきたいです。

奥村さんも、田邊さんもしっかりしていてとても私の2、3歳上には思えません。それに自分の一番好きなことを仕事にされている話はとても興味を湧きました。ありがとうございます。

← 作品の材料になるガラスです。色も大きさもいろいろ。

サンドブラスト  
ガラスの隅隅に圧縮した空気で模様を吹き付け、ツルガラスの模様を表現。

